

第2 日本人間工学会第48回大会報告（概要）

第48回大会は、名城大学教授 福田康明 会長の下に、同大学天白キャンパスの共通講義棟等を会場にして、6月2日(土)～3日(日)に亘り開催された。大会参加者数は約500名に及び盛会裡に終了した。その結果の概要は次のとおりである。

1. 内容

2日(土) : 10会場において、シンポジウム18件、オーガナイズドセッション1件、特別講演1件、一般演題70件の発表。
評議員会及び総会、懇親会

3日(日) : 8会場において、一般演題 123件の発表。

2. 参加人数

494名（内訳；正会員271、準会員28、非会員61、学生非会員63、賛助会員51、）

3. 評価

本大会では一般講演193件、シンポジウム18件、オーガナイズドセッション1件および特別講演1件の計213件の研究発表と機器展示企業20社、参加人数は2日間で延べ1,000名余となり、例年どおり盛大な大会となった。

講演内容では、動作・姿勢、感覚計測、視覚、疲労、交通、設計デザイン、ロボット、安全・事故、福祉機器、高齢者等の多岐に渡り、人間を基軸とした生産、生活、社会および環境等の課題について研究成果が発表され、各会場とも活発な討論が行なわれた。またメインシンポジウムでは、「ものづくりと人間工学－快適性への企業挑戦－」として、企業側より研究・開発・設計・製造のエキスパートによる人間工学の現状と課題等につき、講演内容を踏まえた活発な議論が行なわれた。

懇親会では、タワー75のレセプションホールに場所を移し、夜景を眺めながらグラスを片手に会員間の情報交換が遅くまで続き、大会を成功裏に終了することが出来た。本大会にご参加を頂いた会員諸氏、および大会実行委員の諸先生方に対して、心よりお礼を申し上げます。